

令和7年度  
成田市中学生折り鶴平和使節団派遣事業  
広島派遣報告書



成 田 市  
成田市平和啓発推進協議会

<< 目 次 >>

事業概要	1
活動内容	3
広島派遣	5
派遣後の活動	
報告会	14
派遣団員の報告	16
平和宣言	32
平和都市宣言（世界連邦平和都市宣言、非核平和都市宣言）	34
平和記念碑	35



## ○事業概要

### 【事業名】

成田市中学生折り鶴平和使節団派遣事業

### 【目的】

市では、昭和 33 年に「世界連邦平和都市」を宣言するとともに、戦後 50 年目を迎えた平成 7 年には、「非核平和都市」を宣言するなど、平和啓発活動を進めている。戦後 80 年が経過し、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代へ伝えていくことが課題となっていることから、市内の中学生が被爆地を訪問し、直接、戦争や平和について学び、その感想や成果を多くの市民に伝えることで平和啓発を促進させるものである。

### 【派遣先】

原子爆弾の被爆地であり、原爆資料館のある長崎市・広島市のうち、本年度は広島市を訪問した。

### 【日程】

令和 7 年 8 月 4 日（月）～ 8 月 6 日（水）

### 【使節団の編成】

- (1) 団員・・・市内の中学校・義務教育学校(11 校)から 1 名ずつ推薦された 11 名
- (2) 随行員・・・市教育委員会教育指導課職員 1 名、平和啓発推進協議会員 1 名、市文化国際課職員 1 名の合計 3 名

【実施経過】

4月24日(木)	各中学校・義務教育学校へ団員の推薦依頼
6月22日(日)	結団式・第1回事前研修
7月22日(火)	第2回事前研修
7月29日(火)	出発式・第3回事前研修
8月4日(月)～6日(水)	広島市を訪問
8月24日(日)	事後研修、広島派遣報告(「平和の集いとコンサート」にて)
8月～	各学校での報告会

【使節団】

令和7年度成田市中学生折り鶴平和使節団の構成は次の通りです。

団 員

学 校 名	学 年	氏 名	備 考
成田中学校	2年	上原 碧	
遠山中学校	2年	江波戸 茉奈	
久住中学校	2年	乾 唯花	
西中学校	2年	中川 莉理	団長
中台中学校	2年	平尾 和花	
吾妻中学校	2年	伊藤 もか	
玉造中学校	2年	加藤 せら	副団長
公津の杜中学校	2年	保沢 心音	
下総みどり学園	8年	平野 海夏斗	
大栄みらい学園	8年	堤 壮輔	
成田高等学校附属中学校	2年	伊藤 隆	副団長

随 行 員

成田市教育委員会教育指導課	鈴木 茂雄
成田市文化国際課	青柳 美穂
成田市平和啓発推進協議会	佐久間 美奈子

## ○活動内容

【成田市中学生折り鶴平和使節団結団式】6月22日(日)



### 【事前研修】

戦争や原爆についての学習や木村さんのお話を通して、知識を深め、被爆地訪問に向けて準備しました。

### ○第1回 6月22日(日)

本事業の趣旨説明、原爆についての学習、広島で被爆した木村美子さんの話



### ○第2回 7月22日(火)

戦争と平和について考える、千羽鶴の標語作り、見学先調べ

### ○第3回 7月29日(火)

見学先発表



【千羽鶴収束作業】7月14日(月)～16日(水)

市内11の中学校・義務教育学校の全生徒をはじめ、市民から平和への祈りを込めて折られた鶴が寄せられ、成田市平和啓発推進協議会の方々を含むボランティアの手により、千羽鶴に収束されました。約37,000羽が被爆地に届けられ、平成21年度以来、被爆地に献納した折り鶴は1,576,850羽になりました。



【折り鶴平和使節団・千羽鶴出発式】7月29日(火)

市内中学校・義務教育学校の生徒が平和への祈りを込めて折った鶴がヤマト運輸株式会社の協力により被爆地である長崎と広島に送られました。また、各団員が、成田市長、成田市議会議長をはじめとする来賓の方々の前で、広島で学びたいことや体験したいことなどの抱負を述べました。



## ○広島派遣

8月4日(月)	<p>JR 成田駅集合          JR 成田駅発 (JR 成田線快速・大船行)          JR 品川駅 着          JR 品川駅 発 (新幹線のぞみ 23 号・博多行)          (車内で昼食)          JR 広島駅 着          JR 広島駅 発 (貸し切りバス)          本川小学校視察          原爆ドーム、爆心地 (島外科) 視察          旧日本銀行広島支店視察          夕食          ホテル着 (ミーティング)</p>
8月5日(火)	<p>朝食          ホテル発          平和公園内で千羽鶴献納          平和記念公園を中心に現地ガイドによる原爆遺構視察          昼食          ヒロシマ青少年平和の集いに参加 (16:45 まで)          広島平和記念資料館視察          夕食          ホテル着 (ミーティング)</p>
8月6日(水)	<p>朝食          ホテル発          平和記念式典に参列          JR 広島駅 改札          JR 広島駅 発 (新幹線のぞみ 24 号・東京行)          (車内で昼食)          JR 品川駅 着          JR 品川駅 発 (JR 横須賀線・成田空港駅行)          JR 成田駅 着          駅にて解散</p>

※宿泊先：EN Hotel Hiroshima (エンホテル広島) (広島市中区銀山町 7-8)

8月4日(月)

7:45

JR成田駅集合

JR成田駅改札前にて出発の挨拶を終えた後、出発。



8:14~  
14:02

JR成田駅~JR品川駅(新幹線のぞみ23号)~JR広島駅

14:40~  
15:30

本川小学校平和資料館 見学



本川小学校は、爆心地から一番近い学校で、原爆に巻き込まれて残った建物が平和資料館になりました。

この本川小学校はL字型になっていて、直角ではなく85度の形をしています。最も印象深かったことは、学校内の階段の手すりが原爆で崩れた様子がそのまま残っていたことです。その様子から原爆の破壊力に驚きました。

また、この学校は、原爆により崩れてからも戦後40年間教育の場として使用されていたそうです。ぼくは、原爆の被害にあつてすぐに学校が始まったことに、広島の人たちの力強さを感じました。(下総みどり学園 平野 海夏斗)

15:40～  
16:30

原爆ドーム、爆心地（島外科）見学



原爆ドームでは、原子爆弾が爆心地から160mの距離で爆発、被爆した痕跡が痛々しく残っていました。原爆投下の際に人が中に居たことを知って、原爆ドームも人の血がついた建物だと思えば、いたたまれない気持ちになりました。また、露出した鉄骨が熱で溶け、曲がっている様子が当時の太陽にも迫る熱を感じました。

そして、原爆が炸裂した「爆心地」、建物としては「島病院」も見学しました。ちなみに、原爆は投下目標を相生橋としていたので、300mほどズレた形になります。また、被爆し、破壊されてなお再建された病院から、復興に向けて前に進んだ人間の底力に、心を動かされました。（成田高等学校附属中学校 伊藤 隆）

18:30～  
20:00

ホテルにチェックイン後、夕食（えびす坐）

21:00～  
21:30

ホテル帰着後、ミーティング、千羽鶴・短冊の準備



8月5日(火)

8:30 朝食後、路面電車で平和公園へ移動。

8:45 平和記念公園内に千羽鶴を献納。



9:00~ 平和記念公園内を視察

11:00 千羽鶴を献納後、2グループに分かれ、ボランティアガイドとともに公園内を見学しました。



相生橋



相生橋は、米国が原爆を投下する際に目標にしていた橋です。本川と元安川の分岐点に架かっており、原爆ドームや平和記念公園を結んでいます。かつてこの橋はH字型だったそうですが今は原爆による橋の崩壊でT字型になっています。私は今回、実際に広島へ行き、そのことに衝撃を受けました。また、相生橋を見て、渡って、珍しい形だからるか上空から見ても目立つから目標にされたのかな、と思いました。

是非、当時の橋の写真などと比べてみて、悲惨な状況から広島がどのように立ち直ったかをたくさんの人に感じてほしいです。

(中台中学校 平尾 和花)

## 平和の灯

平和の灯の白い台は手をイメージしていて、その真ん中で火が燃えています。「1964年8月1日に点火され、今、世界に存在する核兵器が全てなくなったときに初めて、その火は消える」と聞いて、世界から核兵器をなくすことは戦争をなくすことに繋がるのだろうと思いました。



80年も前におきた戦争の情報や写真はとても貴重で、それが今でも残されているのは懸命に語り継いでくれた人々がいたからなのだ改めて感じました。あたりまえの日常をあたりまえだと思える平和な世界をつくっていきたいです。(吾妻中学校 伊藤 もか)

## 被爆アオギリ



平和記念公園の中にあるアオギリは、原爆を受けてもすぐに芽を出し、人々に希望を与えました。

爆心地の方向にむいていた幹が、熱線や爆風によって、えぐられた痕が残っているのは、みる人々に原爆の恐ろしさ、80年前にこんなことがあったのだと無言で伝えています。

そして、その過ちを二度と繰り返してほしくないという願いが込められているのだと感じました。

また、近くには、アオギリの歌が聴ける場所がありました。その曲は、平成12年に、小学2年生だった森光七彩（もりみつ ななせ）さんが作った曲です。その歌詞には「勇気をあつめ ちかいます あらそいのない国 平和の灯」という言葉がありました。1人の力では何もできないけど、たくさんの人が集まれば、大きな力になり、今の世界を変えることができるんだと、なので目を背けないでほしいという思いがこもっているのだと感じました。

そんな思いを広げるために、使節団として、より多くの人に伝えなければならないんだと改めて気付かされました。そして、核兵器のない世界へ向けて、微力でもできることを行っていきたいです。(大栄みらい学園 堤 壮輔)

### 原爆の子の像

原爆の子の像は、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、平和への想いを込めて作られています。2歳で被爆し、10年後に白血病となり亡くなってしまった佐々木禎子さんがモデルになっています。私は、原爆の影響力の大きさをあらためて感じました。

私たちは、皆さんの平和への想いを胸に、原爆の子の像に鶴を献納しました。

自分はこれからも平和の大切さを思い行動していきたいです。  
(遠山中学校 江波戸 茉奈)



### 平和の鐘



平和の鐘は、「原爆被災者広島悲願結晶の会」によって設立されたもので、核兵器と戦争のない世界を願い、たくさんの平和の意味が込められたマークが刻まれています。

現地で実際に鐘をつき、80年の歴史と人々の平和への思いを深く感じる事ができました。

(成田西中学校 中川 莉理)

11:30～  
12:30

### 昼食（広島おこのみ物語）

13:30～  
17:00

### 全国平和学習の集い（広島国際会議場）



平和学習会では、14歳で被爆した梶本淑子さんの話が印象に残りました。

1つ目はどれだけの痛い、辛い思いをしたかです。梶本さんの友人は被爆した後、右腕に穴があいて骨がとび出ている状態だったそうです。他にも腕が折れて反対に曲がった人も多くいたそうです。2つ目は、8月15日の玉音放送を聞いて、どう思ったかという質問に対する「1日でもはやく戦争が終わってほしかった。早く終われば何万人もの人が助かった」という言葉です。原爆が落とされてからも空襲などがあり、原爆が落とされてからすぐに降伏していれば何万人もの人が助かったと梶本さんは怒りの気持ちでいっぱいだったそうです。

終戦から80年が経ち、被爆者の方も減少しているなかでこの話を聞き、現地に足を踏み入れ自分の目で見ることができ貴重な体験をすることができました。私は、話を聞き改めて戦争というものは二度と起こしてはいけないものだと思います。

(成田中学校 上原 碧)

グループディスカッションでは、全国各地の小学生から大学生が参加し、学びを共有することを目的に意見を交わしました。

1つ目のテーマは「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けた

か」です。成田市は戦時中、米軍機が通り道となり、残った爆弾を落とされたと言われていました。私は今回初めてこの事実を知り、地元の歴史を語り継ぐ大切さを実感しました。さらに、他県の話も印象に残りました。福岡県の八幡大空襲は、長崎原爆と深く関わり、状況次第では八幡に原爆が落とされていたかもしれないという話です。戦争の被害は偶然で大きく変わることを知り、驚きました。私たちは出来事を知識として学んでも、当時の人々の恐怖や絶望までは分かりません。その「分からないもの」を想像することこそ、平和を考える上で大切だと思いました。

2つ目は「今、平和でない状態とはどのようなことか、どうしたら解決できるか」です。世界では今も戦争や差別が続いています。私たちにできるのは、戦争の記憶を風化させないように学び続け、それを周囲に伝えることだと思います。また、日本には「非核三原則」がありますが、国によって価値観が異なるからこそ、違いを理解し合うことが平和への第一歩だと感じました。



今回の学びを通して、私たちが得た思いや経験を次の世代へ引き継いでいくことこそ、これからの大きな課題だと思います。

(公津の杜中学校 保沢 心音)

17:30～  
18:30

#### 平和記念資料館 見学（自由見学）



平和記念資料館は、広島市中心部の平和記念公園内に1955年に開館した資料館で、原爆による被害の様子を被爆者の遺品や写真・映像で伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目的として、資料館が設立されました。

自分の中で最も印象に残ったものがあります。それは、原爆によって溶け、サビがついた三輪車です。当時3歳だった鎌谷伸一くんがこの三輪車で遊んでいる時に被爆しました。その影響で全身に大けがや大火傷を負った伸一くんは、水がほしいとうめきましたが、その晩亡くなってしまいました。その三輪車は「天国に行っても遊べるように」という思いを込めて遺体と一緒に自宅の庭に埋葬されました。



私は、原爆投下から80年が経ち、被爆者の高齢化が進む中でその体験を直接聞くことが難しくなる中、被爆者の声を聞いてとても貴重な体験をすることができました。現地で見た原爆の恐ろしさを忘れずに戦争は二度と繰り返してはいけないということを周りの人に伝えたいと思いました。(久住中学校 乾 唯花)

19:00～  
20:30

#### 路面電車で夕食へ（酔心本店）、ホテルに戻りミーティング



## 8月6日(水)

5:00	<u>起床</u> <u>朝食後、ホテル出発。</u>	
6:25	<u>平和記念公園に移動。</u>	
8:00~ 8:45	<u>平和記念式典に参列</u> 	特に心に残ったのは、平和への誓いで子ども代表の関口千恵璃さんと佐々木 駿くんのおはなしです。大きな声で現在の世界の状況、そしてこれからの平和への願いを大勢の人に伝えていました。私は、子ども代表のお話を聞き、争いや差別のない社会を目指し、対話と協力で平和を築いていきたいと思いました。そして、核兵器廃絶を目指し世界中に『平和文化』を根付かせていきたいです。 戦争がどんなに恐ろしいかを学んだ貴重な体験を活かし、自分の身の回りから、少しずつ平和がどれだけ素晴らしいことなのか、また平和のために沢山の人が想いを語り継いでいることを伝えていきたいです。(玉造中学校 加藤 せら)
10:00	<u>式典後、ホテルに戻り荷物を取って JR 広島駅へ</u>	
10:40~ 11:45	<u>JR 広島駅着</u>	
12:18~ 17:56	<u>JR 広島駅(新幹線のぞみ 24号 車内で昼食) ~ JR 品川駅 ~ JR 成田駅</u>	
18:00	<u>JR 成田駅着、解散式</u>	

# ○報告会

## 【広島派遣報告会】

場所：成田市文化芸術センター なごみの米屋 スカイトウンホール

8月24日(日)に開催された「平和の集いとコンサート」にて広島派遣報告を実施しました。3日間の派遣でそれぞれの団員が「見て、触れて、感じた」こと、その体験を今後どのように生かしていきたいかを発表しました。報告後、市内在住の荒井清さんによる戦争体験講話や成田市出身の声楽家 小倉牧子さんによる平和のコンサートを聴きました。(来場者：269名)



成田市・成田市平和啓発推進協議会 **入場無料**

戦後80年 **平和の集いとコンサート**

**8/24 (日) 14:00～16:30** (開場13:30)

成田市文化芸術センター  
なごみの米屋 スカイトウンホール

(成田市花崎町828-11 スカイトウン成田3階)  
※専用の駐車場はありません

**中学生折り鶴平和使節団派遣報告**  
8月に広島に派遣される市内の中学校の代表生徒11名が、現地で学んだことや感じたこと、平和への思いを発表します。

**戦争体験講話**  
市内在住の荒井 清さんを講師に迎え、当時の生活の様子や八生小学校に戦闘機が落ちた時の話などを語っていただきます。

**平和のコンサート**  
成田市出身の声楽家 小倉 牧子さんによるコンサートです。

**出演**  
小倉 牧子さん メソソプラノ  
滝澤 清子さん ピアノ  
滝澤 枝子さん 司会進行語り

**曲目**  
・花の節 (江原康子作詞 藤野松樹作曲)  
・いのちの歌 (Iiyabi作詞 村松崇継作曲)  
・海と涙と私 (やなせたかし作詞 木下敬子作曲)  
・見上げてごらん夜の星を (水六輔作詞 いずみたく作曲)  
・フォーレ作曲レクイエムより 彼らに安息を与え給え  
・マスカーニ作曲オペラ カレシアルスティカーナより 愛楽曲 アグマリア 他

お問い合わせ先：成田市文化国際課  
電話 0476・20・1534  
メール bunkoku@city.narita.chiba.jp

いま探したい戦争の記憶 ギャラリー編成  
8/1-8/31 スカイトウンギャラリーA～E



戦争体験講話：荒井 清 さん



平和のコンサート：小倉 牧子さん

## 【学校報告会】

派遣団員となった生徒たちは、それぞれの学校において、被爆地を訪問して学んだことを自分の言葉で先生や他の生徒たちへ報告しました。



## ○派遣団員の報告

広島派遣を終えた後、派遣を通して感じた事や平和への思いが派遣中学生それぞれの言葉で綴られています。

### 平和への思い

成田中学校 2年 上原 碧

私は、折り鶴平和使節団として2泊3日で広島を訪れました。広島では教科書などでは分からないことを自分の目と肌で感じ学ぶことができました。

1つ目は、本川小学校資料館です。本川小学校はL時型の小学校でした。その中でも角の部分にあった1部屋しか残らずたくさんの方が犠牲となりました。角の部屋にいた1人のみが生き残ったそうですが、その方も40歳を超えたあたりから放射線の後遺症に苦しめられたそうです。放射線の後遺症によってたくさんの方が苦しんだり、原爆投下によって尊い命が奪われたりと戦争は二度と起こしてはならないと思いました。

2つ目は、全国平和学習の集いです。全国平和学習の集いでは梶本淑子さんの話を聞き、とても恐怖を感じました。被爆者の方からの話を聞かせていただき、実際にどんなことが起きたのかなど詳しい出来事を知ることができました。被爆者の方からの話の後、グループディスカッションで年齢が近い方と自分の地区ではどのような被害があったのか、平和とは何かという題で話し合いました。自分の地区以外の被害を知り、平和とは何かを真剣に話し合い考えることができました。

折り鶴平和使節団として広島を訪問し過ごした2泊3日はとても貴重な経験になりました。現在、被爆体験を語れる方が減少しているなかで話を聞いたことはとても貴重な体験だし、この話を聞いた私たちが語り継がなければならないという役目だと感じました。そして原爆によって亡くなられた方々がたくさんいるという事実はなくせませんが、これが原爆死没者慰霊碑にかかっている「過ちは繰り返しませぬから」に繋がると思います。そして最後にこの2泊3日で学んだたくさんの事を次世代に伝えていきたいです。

## 広島への訪問で感じたこと

遠山中学校 2年 江波戸 茉奈

80年前の1945年8月6日午前8時15分、アメリカ軍が人類史上初の原子爆弾“リトルボーイ”を広島に投下しました。地上約600mで爆発し、たった一発の原子爆弾で約14万人の尊い命と広島を瞬時に壊しました。生き残っていても、放射線などの影響で後遺症が残っており、今でも苦しんでいる人もいます。この出来事は、たくさんの人々の記憶に深く残っています。

私は折り鶴平和使節団の一員として広島を訪問してきました。実際に広島に行き自分の目で見て耳で聞いたことで、教科書や本ではわからないことをたくさん感じてきました。

1日目は本川小学校を見学しました。本川小は原爆の爆心地から、わずか410mの場所にあり、当時多くの生徒や先生が亡くなったそうです。爆心地に近かったため、教室や窓などはすべて吹き飛びましたが、窓枠や骨組みは残ったそうです。学校の中に入り当時の写真や遺品が展示されていて、何人かの名前と物語が記されていました。それを見て私は「平和は本当に尊いもの」と強く感じました。次に原爆ドームを見学しました。原爆ドームは爆心地から約160mしか離れておらず、凄まじい爆風と熱線の被害を受けました。けれども原爆ドームは頑丈な鉄骨などでできていたため、今の形のままで残っており、人類史上初めて使用された核兵器の悲惨さを後世に伝える遺産として世界遺産に登録されました。爆心地近くで爆弾が炸裂しましたが、投下前と同じ形で残っていることに、私は強い衝撃を受けました。

2日目は原爆の子の像と平和記念資料館を見学しました。原爆の子の像は、佐々木禎子さんがモデルで作られました。佐々木さんは2歳で被爆し、10年後に白血病と診断されました。病気と闘いながらも「千羽鶴を折れば願いが叶う」と信じて、亡くなる前まで折り続けたといわれています。私も訪問前に作った千羽鶴を持っていき、平和への願いを込めながら献納しました。世界中から届いた色とりどりの千羽鶴があり、平和を願うことは国が違っても同じなのだと思えました。その後、平和記念資料館を見学しました。館内には被爆した人たちの写真や遺品、原爆の熱で変形したガラスや鉄の塊などが展示されていました。その中でも、私は焼けこげた三輪車が心に強く残りました。小さな子どもが遊んでいた三輪車が、爆風で焼けてしまい、原爆の残酷さを一目で感じるものでした。家族や友達を失った悲しみをとても強く感じることができ、胸が締め付けられました。午後からは、全国平和学習の集いに参加しました。前半は被爆体験証言で、実際に起こったことを被爆者の方から聞きました。私が特に印象に残ったことは、『公園へ負傷した友人を運んでいるとき、亡くなっている人の上を歩く』ということで、ドロツやぬるっとした感触があったそうです。私は絶対に耐えられないし、精神的にも辛かっただろうと思いました。後半はグループ・ディスカッションで、全国各地から集まった中高生と意見交換をしました。「私たちの地元では、どのような被害を受けたか」「平和ではない状態とはどのようなことがあるか」

について話し合いました。私と同じような意見やまったく違う意見が出たので、さまざまな意見を共有し合うことができました。

最終日は平和記念式典に参加しました。会場では多くの人々が静かに祈りを捧げ、鐘の音が会場中に響きました。私は「二度と同じ悲劇を繰り返してはいけない」と強く心に誓いながら黙とうをしました。その後、子ども代表の平和への誓いや市長による平和宣言を聞き、胸が熱くなりました。

今回の訪問を通して、平和な世の中は当たり前のもではなく、守り続けなければいけないことだと学びました。小さいことでも、自分ができる平和への行動を続けて、今回学んだことを家族や友達に伝えたいです。そして、もうこのような悲劇を二度と起こさないためにも自分たちの世代で次世代の人たちにも伝えていき、未来へ繋げていきたいです。

## 二度と繰り返してはいけない

久住中学校 2年 乾 唯花

1945年8月6日8時15分、原子爆弾による一発の力で広島は「地獄のような光景」へと変わってしまいました。爆心地から数百メートル圏内では、今まで感じたことのない熱風や暴風さらに大量の放射線を浴び、一瞬にして多くの命が奪われました。たったの一発で「地獄」と化したその瞬間を想像するだけで、胸が苦しくなります。このような悲惨な体験をし、平和の尊さを訴えている広島へ私は初めて行き、特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、本川小学校です。本川小学校は、被爆当時、爆心地からわずか415mという広島で最も原爆に近かった学校でした。鉄筋コンクリートで作られた校舎は、外壁と地下にあった建物を除いて完全に破壊され、学校にいた職員10名と児童約400名の命が一瞬にして命を落としました。奇跡的に生き残ったのは2名だけだったと伝えられています。約半年後には、児童45名職員4名で授業が再開されました。現在は、校舎の一部が平和資料館として保存されています。そこには、焼け残った壁や遺品・写真が残されていて、私たちに「二度と原爆を使ってはいけない・二度と繰り返してはいけない」ということを強く訴えているように感じました。

2つ目は、被爆体験講話の梶本淑子さんのお話です。梶本さんは私たちと同じ14歳の時、爆心地から2.3km離れた工場で被爆し、倒壊した建物の下敷きになり友人に助けをもらい、立ち上がることができました。腕や足に大火傷などを負いながら、火傷した友人を担架にのせ、道には死体が重なっていても、そこを通過していたそうです。腕や足には、ガラス片が刺さったり、ウジ虫がわいたり、梶本さんは人間として生きる希望を失うほど辛かったようです。相当、無惨な状態だったのでしょう。梶本さんは、死に対する恐怖心・悲しみが薄れ、気が狂ったとおっしゃっていました。私は、このことから今、何不自由なく生活を送れていること、常に健康でいられること、大切な家族・友達・助けてくれる人がいることがどれほど幸せかとても痛感しました。これを聞いた私たち若い世代が少しでも平和に近づけられるように些細なことでもたくさんの人に伝え、核兵器廃絶に向け、力を尽くしたいと思いました。

平和とは戦争がないだけでなく、誰もが平等であり、安心して生活が送れることだと私は思います。核兵器の使用はそのような日常を奪いとり、人々を苦しめる凶悪なものであり、二度と使用することが絶対に許されないものです。現地に行き、原爆の恐ろしさを見た私たちは平和の大切さについて、積極的に話を広めることが大切だと思います。

広島を訪問して、原爆の恐ろしさや平和の重要性を学びました。この経験を活かし、日本だけでなく全世界が平和に包まれるように1人でも多くの人に幸せになってもらうためにも、「戦争を起こしてはいけない」ことをたくさんの人に伝えたいと思います。

## 平和への考え方

成田市立西中学校 2年 中川 莉理

1945年8月6日、この日に広島は原爆を落とされ約14万人が亡くなりました。私は平和使節団として広島に3日間滞在しました。現地でしか感じられない被爆建築物の様子や、全国から集まった皆さんと平和について話し合う機会があり、戦後80年の節目に広島に行けたことは自分にとって大きな経験が出来ました。

### 1日目

最初に爆心地から近く、大きな被害を受けた本川小学校に行きました。元の校舎は原爆でほとんど壊れてしまっていて残っていた鉄も歪んでいたり、校内の床は被爆した当時のままで岩のようになっていたり、階段の手すりが燃え尽きて無くなっていました。学校を見学してみてその場にいた人たちのことを考えると、胸が締め付けられる思いです。

その後に旧日本銀行広島支店に行きました。そこには原爆が落とされる前と後などや、復興の様子が載った写真や詳細について書かれており、どの写真にも人々が一生懸命に復興に向けた努力が感じられました。

### 2日目

平和記念公園に行きました。そこは元々繁華街でとても賑わっていたエリアで地元のガイドさんから原爆や戦争に関する話を聞いたり、公園内にある建築物を見たりすることができて教科書以上の内容を学ぶことができました。平和記念公園に行き、地元のボランティアガイドさんの案内のもと、公園内を視察しました。平和記念公園は元々繁華街でとても賑わっていた場所であったこと、原爆、戦争に関する話をきいたり、公園内のモニュメントの意味を学んだりしました。

次に全国平和学習の集いに参加し、実際に被爆した状況や心情を詳しく聞くことができました。その方は当時私と同じくらいの年齢で、戦争のために働かされていて、救護のために被爆して道に倒れている人を踏んで歩かなければいけない状況だったそうです。私だったらとても耐えられないと思うほど悲惨な状況だと思いました。被爆した梶本美子さんは14歳で被爆して、被爆した経験をたくさん教えてくれました。特に印象に残ったのは「天皇陛下から終戦の玉音放送を聞く前日に、私の叔母が亡くなった。昨日戦争が終わっていたら叔母は亡くならなくて済んだのに」とおっしゃっていました。このお話を聞いて、梶本さんのように苦しい思いをしてきた人たちがたくさんいることに深い悲しみを感じました。

全国の人と平和について講義するグループディスカッションでは、私は世界から戦争をなくしたいと思っていましたが、それぞれの考え方の違いにより戦争はなくならないと思う人もいました。様々な意見が聞けたことで、考えが広がり

ました。年齢も住んでいる土地もバラバラな人たちと同じ話題で話すことは良い影響を受けました。

次に平和記念資料館に行きました。ここには被爆した人の遺品や被爆した人の様子の写真があり、たくさんの人々の被爆への悲しみや辛さが感じられ、見ていてとても辛い気持ちになりました。被爆した物の中に変形した自転車や飛び散ったガラスの展示があったのですが、私の身の回りにあるものも、こんなになってしまうんだと改めて原爆の威力に、恐怖を覚えました。

### 3 日目

私たちは平和記念式典に参加しました。鐘の音を聞きながら黙祷の際には、今まで学んだことや被爆された方のお話を思い出し、今後自分たちにできることは何かと考えました。

現在、被曝された方の高齢化が進み、今度は私たちがたくさんの人に伝えていくことが大切になります。世界で唯一の被爆国だからこそ伝えられることがたくさんあると思います。私はもっと戦争や原爆について深く知り、今の平和を大切さを感じてほしいので、無知と無関心ではいけないということをたくさんの人に伝えていこうと思います。

## 広島での派遣を通して学んだこと

中台中学校 2年 平尾 和花

私は今回、広島へ折り鶴平和使節団として派遣され、とても貴重な経験をすることができました。その中でも特に印象に残ったことを紹介します。

まず、一つ目は広島街の街並みです。今から80年前、街はほとんど壊滅状態になり、75年は草木も生えないと言われていましたが、今現在の広島は建物が立ち並び、木が生き生きとして、居心地が良くとても綺麗な街並みでした。当時の人々は家族や友達などの大切な人、今まで住んでいた街が突然、一瞬にしてなくなってしまったということを再確認しました。それと同時にとても大きな悲しみに負けず、みんながかつての広島を取り戻そうと立ち上がり広島を復興させたということがとても尊く素晴らしいことだと感じました。それと同時に、今何不自由なく生きている私たちの平和とは、とても貴重で奇跡のようなものだの実感しました。

二つ目は原爆ドームです。原爆ドームは爆心地からわずか160メートルしか離れておらず、凄まじい威力の熱線や爆風などの被害を受けましたが、鉄骨などの頑丈な素材でできていた部分は残り、今は世界遺産にも登録されています。とてつもない威力で半径2キロメートルもの広さを焼き尽くしてしまうほどの威力を直に受けたはずなのに形が残っているという事に対し、衝撃を受けました。原爆ドームと川の間にある通りに石でできたベンチがあるのですが、その中に一つ実際に被爆した原爆ドームの門柱があり、座ると他のベンチに比べ少しゴツゴツしていびつな形でしたが実際に被爆した門柱に触れることができ、とても貴重な経験になりました。原爆ドームは今、震度6までの揺れに耐えられるそうで、どんどん補強され震度7の揺れに耐えられるようにしているそうです。

三つ目は相生橋です。相生橋とは、原爆投下の際、米軍の目標になった橋です。なぜ相生橋が目標になったのかというと、形が特殊だからです。通常の橋は対岸に向かって一直線に伸びるI字型ですが、かつての相生橋は本川と元安川の分岐点に架かる橋の間から一本、今の平和記念公園に向かって伸びる橋と、その橋に向かって直に伸びる橋があり、H字型でした。今は原爆が投下されたことによって橋が崩壊してしまい、復旧工事をしてT字型になっています。橋の入り口には旧相生橋碑という碑があり、もともとあった親柱を記念に残しているそうです。相生橋はいろいろな見学先に行く時に必ずと言っていいほど通りました。実際に通ってみて、T字型の橋はとても珍しく特徴的な形ではるか上空から見ても目立つことを実感できました。

最後の四つ目は2日目に参加した、平和学習の集いです。ここでは、北海道から沖縄など、さまざまな都道府県から集まった中高生が実際に被爆された方の被爆体験証言や原爆被害の概要を聞き、その話を聞いて6、7人でグループディスカッションをしました。原爆被害の概要では、原爆投下までの過程や被害、世界の近況、核廃絶についての話を聞きました。次に聞いた被爆体験証言では、梶

本淑子さんの経験した当時の広島について、被爆された方の実際の話を知ることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。私は中でも梶本さんの「無知と無関心はいじめにせよ、戦争にせよ、共犯者だ」という言葉が印象に残りました。興味がなかった、知らなかった、は都合の良い免罪符なのではないかと考えさせられる言葉でした。後半はグループディスカッションをしました。さまざまな土地、年齢の人たちと「自分の地元ではどのようなことがあったか」「今、平和でない状況とは何か」につグループディスカッションな意見があり、自分と似た考えの人や少し異なる考えの人がいて、たくさんを知ることができました。

私はこの広島への派遣を通して、かつての広島で、どのようなことがあったのか、それに対してどのような考えがあるのかを学ぶことができました。このとても貴重な経験をより多くの人に言葉などを通して伝えていき原爆の恐ろしさをもっとたくさんの人に実感してもらいたいと思いました。

## 平和とは

吾妻中学校 2年 伊藤 もか

成田市中学生折り鶴平和使節団として、3日間広島を訪問し、原爆ドームや平和記念公園などを見学してきました。実際に広島へ足を運び、資料や写真だけではわからないことを肌で感じることができました。その中で特に印象的だったものが2つあります。

1つ目は、本川小学校です。爆心地である島内科医院から410mの距離にある、最も近くで被爆した小学校です。30部屋もあった教室が1部屋しか残らなかったり、外部を残して全焼、壊滅したりと、大きな被害を受けました。およそ400名の生徒と11名の教員が犠牲になり、生存できたのはたったの2名だけです。当時6年生だった居森清子さんは、鉄筋コンクリート校舎1階の窓がない場所にいたため、奇跡的に無傷で助かりました。しかし、40歳を超えた頃から、放射線の影響で何度も病気になり、入院・手術を繰り返していたそうです。生き残ることができても、放射線の後遺症で苦しんでいる人がいることを初めて知り、たくさんの人々の命や未来を奪ってしまう戦争は、2度とあってはいけないものだと思いました。

2つ目は、平和記念資料館です。建物疎開時に実際に生徒が着ていた、ボロボロになった洋服や、食べる前に亡くなって、中身が残ったまま焦げてしまったお弁当箱など、戦争の悲惨さを表す多くの展示物がありました。それらの展示品は戦争の恐ろしさを私たちに無言で訴えかけているようでした。当時3歳だった鉄谷伸一くんは、三輪車で遊んでいるときに被爆しました。全身に大怪我・大火傷を負ってその晩亡くなり、天国でも遊べるようにと三輪車と共に庭に埋められました。日本が戦争をしていたために、伸一くんはたった3年しか生きられませんでした。伸一くんだけでなく、一発の原爆で尊い命を落とした人々がおおよそ14万人もいたのです。命の奪い合いをするだけの戦争は勝っても負けても地獄だと、被爆体験者は言います。

実際に広島で建物や資料を見たり、被爆した方からお話を聞いたりする中で、何度も「平和」という言葉が出てきました。また、全国平和学習の集いで、日本は今、平和だという意見が多くありました。平和とは何か。私は、「日本は平和だ」と思えることだと考えます。大切な家族や友人と生活をする事ができて、いつ襲撃があるか怯えずに暮らせることだと思います。今も、世界では戦争が続いています。認められていないのに、核兵器を保有している国があります。それは、決して平和な世界ではありません。

広島・長崎の原爆投下から80年が経ち、被爆者の平均年齢は86歳を超えた今、実際に被爆した方から戦争や原爆のお話を直接聞くことは困難になってきています。被爆体験を語り継げる人は減っていますが、多くの方が心と体に深い傷を負った事実はなくなりません。

成田市中学生折り鶴平和使節団として、被爆地を訪れ、戦争の悲惨さを学んだ私たちは、それらを後世の人々に伝えていく使命があります。戦争をしたという

悲惨な出来事を 2 度と繰り返さないことが、私たちが平和な世界を創るために  
できることだと思います。日本だけでなく、世界は平和だと思えるような世の中  
にしていきたいです。

私は折り鶴平和使節団として原爆ドーム、平和記念資料館などを見学して、平和記念式典に出席し、核兵器の恐ろしさや戦争の無惨さを学びました。

1945年8月6日。地上から約600メートルのところから一つの原爆が落とされました。たった一つの原爆で、家や人々が吹き飛び、家族と離れ離れになり、火傷や大怪我に苦しみ、誰が誰なのかも見分けがつかないほど、酷い姿になってしまいました。自分が無事でいられることが困難な状態で、家族が生きているかという不安を抱えながら、必死に逃げ惑う。そんな状況は現在の日本では考えられません、紛れもなく80年前に起こってしまった事実です。私は、この事実にはしっかりと向き合い、まだ世界で戦争が続いている国を一つでも無くしたいと心から想いました。

梶本淑子さんが『友達とタンカに人をつんで運んだ。最初は、怖くて泣きながら運んでいたが、次第に感情を忘れて運んでいた。』と語っていました。私はその話を聞いて、人間は恐怖や痛み、苦しみが限界に達した時、感情が壊れてしまうんだな、と恐ろしく感じました。梶本さんの体験したお話を、忘れずに自分の胸に刻み、次の世代に繋いでいきたいです。被爆者の方が体験した話を繋いでいくのは、1人の力では、とても難しいことです。しかし、一人一人が平和について深い関心を持ち、小さな事でもしっかり伝えていくことで、平和をつなぐバトンになると思います。バトンをつなぐには、自分の体験を周りの人に語ったり、現地に行って、文化や地域に触れたりして、考えることが大切です。私も様々な方法で、自分達が学んだことを活かし、平和の尊さを知らせていきたいです。

また、今回平和資料館で放射線の後遺症で苦しんだ人達の写真や、それを示した絵を初めて目にしました。中には、文字が書いてある絵もあり、それがとてもリアルで読んでいて足がすくみました。写真でしか分からない、被爆者の情報もありましたが、絵が伝えてくれる被爆者の苦しさや、苛酷さが事細かに描かれていました。絵を見た瞬間に、私は息を飲み込むような悲惨な光景を思い浮かべました。私も絵を描くことが好きなので将来、被爆者が体験した悲痛さや怖さを絵で、後世に伝えていきたいです。更に放射線は、被爆者だけの被害では収まらず、子孫の健康にも影響がでてしまう可能性があります。きっといつか自分も病気にかかるかもしれないと気が気ではなかったでしょう。その不安は、取り除かれることは決して無いと思います。このような不安や痛み、そして恐怖を生んだ原爆にもものすごく腹が立ちます。世界には、まだ約12,000発の核兵器があるといわれていて、いつ核兵器が使用されてもおかしくありません。戦争は、その場だけの被害だけでなく、その後の時代や文化、人々にも影響を及ぼすことを、世界中の人々がもっと深刻に考えなくてはいけないと感じました。私達は今回の体験を役立て、核兵器廃絶を目指し、平和のありがたみを伝えていきます。そして、今健康で生きていることに心から感謝し、家族、友人との関わりを大事にし、周りの人々から平和の環境をつくっていききたいです。

## 私が見た広島と平和の大切さ

公津の杜中学校 2年 保沢 心音

広島の実爆ドームや平和記念資料館、平和記念式典を見て、戦争の怖さや核兵器の残酷さを強く感じ、胸が苦しくなりました。資料館では被爆者の語りや写真を通して、一人ひとりの命の大切さと平和のありがたさを学びました。

こうした語りや記憶を、形や場所にして後世に残すことも大切だと感じました。式典では多くの方が犠牲者を思い、二度と戦争を起こさないよう願う姿に心が動かされました。国家を変えるのは難しいですが、国家を動かすのは人です。スポーツや芸術など、みんなが親しみやすい分野から少しずつ変えていくことも必要だと思います。

平和は誰かが守るものではなく、自分たち一人ひとりが大切にしていくものだと感じました。これからもこの思いを未来に伝えていきたいです。

## 広島と原爆を学んで感じたこと

下総みどり学園 8年 平野 海夏斗

私は、折り鶴平和使節団として二泊三日で広島に行き、とても貴重な体験をさせていただきました。

1日目には、本川小学校、原爆ドーム、爆心地、旧日本銀行広島支店を訪れました。本川小学校は大きな L 字型の学校でしたが、今では原爆の影響で残った一階部分と地下が平和資料館となっています。地下には今も原爆の様子が残っていました。床は歩きにくく、壁はボロボロ、階段の手すりは崩れていました。この様子から原爆が建物を崩した理由がわかりました。

原爆ドームは、テレビでも見たことがありましたが、目で見ると実に大きな建物だとわかりました。爆心地は、当時のアメリカ軍が、相生橋の中心部を狙ったところ、狙いが外れ、島外科医院の上空約 600m で、爆発を起こしたそうです。1日目の最後に旧日本銀行広島支店を訪れ、当時のヨーロッパと日本の関わりが伝わってくるような洋風の内装になっていました

次に2日目には、相生橋、アオギリ、原爆の子の像、平和の鐘、平和記念資料館を訪れ、全国平和学習の集いに参加しました。相生橋は T 字の形をした橋で、昔のアメリカ軍はその橋の中心を狙いました。平和記念公園内の原爆に負けなかった木、アオギリを見ました。原爆の子の像は佐々木禎子さんという、原爆の影響で亡くなってしまった子の像が建っています。彼女は、自分の病を治すために折り鶴を1人で1200羽ほど折ったと言われています。平和の鐘には、国境のない国が鐘に描かれていて、核を禁止するマークが刻まれています。鐘の打つ部分は鏡で、人の心を写すと言われています。

全国平和学習の集いでは、被爆者からのお話をいただき、知っている人が何人いるかわからないほどの経験談や実際に起きた出来事を沢山教えていただきました。そのあとに他校の人や高校生と会話をしながらグループディスカッションを行いました。話すうちに仲良くなったり悩み合えたことに楽しさを感じました。その日の最後には平和記念資料館を見学し、原爆を受けた三輪車、人の服やカバンを見ました。ボロボロになった服を見た時に被爆した人の火傷を想像してその痛々しさに恐怖を感じました。

最後に3日目です。朝早くから平和記念公園に向かい平和記念式典に参加させていただきました。この式典にはたくさんの列が並び、何百何千もの人たちが集まり席に人々が座りました。総理大臣や市長に知事まで、色々な人が来て、原爆のことを考える人がこれ以上にいるのだと感じました。

私はこの3日間で大事なことを、伝えなくてはならないことを非常に沢山聞いて、見て、学びました。自分が大人になった時にどのような世界になっているかはまだわからないけれど原爆が減っていることを願うし、次世代へ向けて学んだことを全て伝えていきたいと思いました。

## 広島に行って感じたこと

大栄みらい学園 8年 堤 壮輔

今から 80 年前に広島に一発の原子爆弾が落とされ、一瞬にして多くの人々が亡くなりました。私たちは、昔の惨状を知るために、たくさんの場所を訪れました。中でも印象に残ったのが、本川小学校と広島平和学習の集いです。

本川小学校では、実際に被爆した階段や床、地下室などを通りました。地下室はとても薄暗く、私はここでたくさんの幼い命が失われていったんだと実感し、何も罪のない人がたった一発の原子爆弾によって、なくなってしまったことに、とてもやるせない気持ちになりました。本川小学校で被爆し、生き残っているのは、たった 1 人だそうです。私は、原爆についてわかってはいたつもりだったけど、実際に行かないとわからない恐ろしさを感じ、この上ない恐怖を覚えました。この恐怖を自分だけの恐怖で終わらせず、少しでも多くの人に、自分が感じた思いを伝えていきたいです。

広島平和学習の集いでは、さまざまな県から小学生から大学生まで様々な人たちが集まり、梶本さんの戦争体験講話を聴き、グループディスカッションを行いました。

梶本さんの戦争体験講話では、「無知と無関心は共犯者」という言葉が一番心に残りました。今まで、私は、日本は平和だから大丈夫だと、勝手に目を背けていました。しかしこの言葉を聞いて、いかに私が今の環境を「当たり前」だと思っていたのが気付かされました。80 年前のことは決して遠い過去ではありません。たくさんの戦争に関する知識を得て、その当時の状況を知ることが、共犯者にならない、平和に少しでも近づくことなのかもしれません。

グループディスカッションでは、地域の第二次世界大戦中の被害や平和でない状況とは何か話し合いました。一つの話題でも、それぞれの持っている意見が違って、それで話し合うことは、楽しくもあり、とても難しかったです。しかし、自分の一つの視点だけではなく、たくさんの視点から物事を見ていくと、自分ではわからなかったたくさんのことに気づきました。平和は勝手にやってくるものではなく、私たちが作っていかねばならないのだと感じました。そして、まず自分たちの身の周りから平和をつくっていくことが大事なのだという考えを持つことができました。

3 日目には、平和記念式典に出席しました。式典にはたくさんの人が集まっています。宗教、国籍も違う人々が、同じ方向を向き、80 年前という戦争に思いをはせていたのがとても感慨深いものがありました。これを機に、世界中が手を取り合い、核兵器のない、平和な世界へ向け、大きな一歩を踏み出していければと思います。

私たちが使節団で広島に行っている間「核兵器のない世界」という言葉をたくさん聞きました。それは、1 人の力で成し遂げられるわけではありません。世界中で協力することが必要です。世界中で協力するということは、とても考えにく

いことかもしれません。そんな時は、まず自分の生活の中で、戦争について話したり、周りと協力したり、何より「優しさ」を持って人に接することが大事なのではないのでしょうか。「優しさ」を持って人と接すると、それが人に繋がり、やがて、どんな力にも勝る大きな力を持つことができるのだと思います。なので、まずは自分が「優しさ」を持つということを忘れずに過ごしていきたいです。

この折り鶴平和使節団を通して、原爆の被害を受けたものをみて、教科書や本ではわからないたくさんのお話を肌で感じる事ができました。戦争や原爆を体験した人が少なくなっている今、次の世代に伝えていく役目は私にあるのだと強く感じました。全世界の核兵器が廃絶され、平和で誰もが笑って過ごせるように、私のこの作文がみなさんの考えるきっかけになっていければ嬉しいです。

## 新たなる戦前

成田高等学校附属中学校 2年 伊藤 隆

皆さんは、80年前と聞くと、何を感じるでしょうか。80年前にあった戦争は遠く見えるでしょう。ですが、戦争が絶えない現代の今こそ、その悲しい歴史を見直すべきだと、僕は思います。

広島では、多くの戦争遺構がありました。やはり記憶に残ったのは「原爆ドーム」でした。溶けて垂れた鉄骨、むき出しのレンガ、爆風の通った跡。また、原爆ドームは、当時、広島県物産陳列館という施設で、原爆投下時に職員が居たことも驚きでした。この原爆ドームの向かい側に位置する本川小学校にも衝撃を得ました。元々小学校として使われて居た教室が被爆してもなお残っている事など、人の作った物の強固さを感じました。しかし、生徒1人を残して死に絶えるような悲劇は、あってはなりません。人間は、手に負えない武器を持ってしまっている事を直感しました。

他にも、印象的なエピソードがあります。現地のガイドさんに教えていただいたお好み焼き屋の店名についてです。どうやら女性の名前の店が多いらしく、戦争に行った夫や子供に、焦土と化した広島で家を見つけてもらうため、その様に発達したというのです。美味しい料理にも、戦争の痕跡が色濃く残っていることに驚きました。

現在、世界では多くの戦争が起きています。大国同士も牽制し合い、一触即発の状態と言っても過言ではないでしょう。しかも日本は内憂外患の状態です。東アジアでの紛争で輸送が止まるかもしれない。米露交渉が決裂するかもしれない。日本は少子化で消えるかもしれない。石油危機が起こるかもしれない。台湾有事が発生するかもしれない。アメリカ覇権が終わり、世界恐慌が起こるかもしれない。日本で大災害が発生するかもしれない。第三次世界大戦が勃発するかもしれない。2025年が「戦前」と呼ばれる日が来るかもしれない。そんな不安定な時代に生まれ、しかし、広島で多くのことを学んだからこそ、僕は日本から平和の大切さ、尊さを広めていきたいと、思います。ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ。

## 平和宣言

今から80年前、男女の区別もつかぬ遺体であふれかえっていたこの広島で、体中にガラスの破片が突き刺さる傷を負いながらも、自らの手により父を茶毘に付した被爆者がいました。「死んでもいいから水を飲ませて下さい！」と声を振り絞る少女に水をあげなかったことを悔やみ、核兵器廃絶を叫び続けることが原爆犠牲者へのせめてもの償いだと自分に言い聞かせる被爆者。原爆に遭っていることを理由に相手の親から結婚を反対され、独身のまま生涯を終えた被爆者もいました。

そして核兵器のない平和な世界を創るためには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみるのが大事であり、決してあきらめない「ネバーギブアップ」の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者。こうした被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切になっています。

しかしながら、米国とロシアが世界の核弾頭の約9割を保有し続け、またロシアによるウクライナ侵攻や混迷を極める中東情勢を背景に、世界中で軍備増強の動きが加速しています。各国の為政者の中では、こうした現状に強くとらわれ、「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない。」という考え方が強まりつつあります。こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものです。

このような国家が中心となる世界情勢にあっても、私たち市民は決してあきらめることなく、真に平和な世界の実現に向けて、核兵器廃絶への思いを市民社会の総意にしていかなければなりません。そのために、次代を担う若い世代には、軍事費や安全保障、さらには核兵器のあり方は、自分たちの将来に非人道的な結末をもたらす得る課題であることを自覚していただきたい。その上で、市民社会の総意を形成するための活動を先導し、市民レベルの取組の輪を広げてほしいのです。その際心に留めておくべきことは、自分よりも他者の立場を重視する考え方を優先することが大切であり、そうすることで人類は多くの混乱や紛争を解決し、現在に至っているということです。こうしたことを踏まえれば、国家は自国のことのみ専念して他国を無視してはならないということです。

また、市民レベルの取組の輪を広げる際には、連帯が不可欠となることから、「平和文化」の振興にもつながる文化芸術活動やスポーツを通じた交流などを活性化していくことが重要になります。とりわけ若い世代が先導する「平和文化」の振興とは、決して難しいことではなく、例えば、平和をテーマとした絵の制作や音楽活動に参加する、あるいは被爆樹木の種や二世の苗木を育てるなど、自分たちが日々の生活の中でできることを見つけ、行動することです。広島市は、皆さんが「平和文化」に触れることのできる場を提供し続けます。そして、被爆者を始め先人の助け合いの精神を基に創り上げられた「平和文化」が国境を越えて広がっていけば、必ずや核抑止力に依存する為政者の政策転換を促すことになり

ます。

世界中の為政者の皆さん。自国のことのみで専念する安全保障政策そのものが国と国との争いを生み出すものになってはいませんか。核兵器を含む軍事力の強化を進める国こそ、核兵器に依存しないための建設的な議論をする責任があるのではないですか。世界中の為政者の皆さん。広島を訪れ、被爆の実相を自ら確かめてください。平和を願う「ヒロシマの心」を理解し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けた議論をすぐにでも開始すべきではないですか。

日本政府には、唯一の戦争被爆国として、また恒久平和を念願する国民の代表として、国際社会の分断解消に向け主導的な役割を果たしていただきたい。広島市は、世界最大の平和都市のネットワークへと発展し、更なる拡大を目指す平和首長会議の会長都市として、世界の8,500を超える加盟都市と連帯し、武力の対極にある「平和文化」を世界中に根付かせることで、為政者の政策転換を促していきます。核兵器禁止条約の締約国となることは、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会を含む被爆者の願いに応え、「ヒロシマの心」を体現することにほかなりません。また、核兵器禁止条約は、機能不全に陥りかねないNPT(核兵器不拡散条約)が国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石として有効に機能するための後ろ盾になるはずで、是非とも来年開催される核兵器禁止条約の第1回再検討会議にオブザーバー参加していただきたい。また、核実験による放射線被害への地球規模での対応が課題となっている中、平均年齢が86歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩にしっかりと寄り添い、在外被爆者を含む被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆80周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、決意を新たに、人類の悲願である核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に、これからも力を尽くすことを誓います。

令和7年(2025年)8月6日

広島市長 松井 一實

## ○平和都市宣言

### 世界連邦平和都市宣言

(昭和 33 年 10 月 31 日宣言)

成田市は、宗教観光都市として、世界連邦建設の趣旨に賛同し、自ら永遠の平和都市となることを決意し、全世界の恒久平和確立と人類の福祉増進に努力せんとするものである。

右宣言する。

### 非核平和都市宣言

(平成 7 年 2 月 21 日宣言)

世界の恒久平和は、全世界の人々の共通の願いである。

我が国は世界で唯一の核被爆国として、広島・長崎に原爆が投下されて本年で 50 年目を迎える。

我々は、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再びこの地球上にあの惨禍を繰り返すことのないよう強く望むものである。

このため、平和を希求する我々成田市民は、我が国の国是である非核三原則が完全実施されることを願い、全世界の人々と共に、核兵器の廃絶、恒久平和確立のためここに「非核平和都市」を宣言する。

## ○平和記念碑



「平和と繁栄の像」

世界連邦平和都市宣言の記念として昭和 33 年の旧庁舎完成時に寄贈された。



「成田市平和のためのメンヒル」

平和を愛する成田市民の心の象徴として平成元年に建立された。

令和7年度 成田市中学生折り鶴平和使節団派遣事業  
広島派遣報告書

令和8年3月 発行

発 行 成田市

〒286-8585

成田市花崎町760番地

電 話 0476-22-1111（大代表）

編 集 成田市シティプロモーション部文化国際課

登録番号 成文 25-050